

■結果の概要（正答率の比較）

教科の正答率

		全体	観点別			領域別						回答形式
			知識技能	思考判断表現	態度	言葉特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話す聞く	書く	読む	記述式
R 5	竹田市	69.0	69.0	68.8	-	72.5	60.1	-	79.2	29.8	71.5	53.2
	全国	67.2	68.9	65.5	-	71.2	63.4	-	72.6	26.7	71.2	51.1
	差	1.8	0.1	3.3		1.3	-3.3		6.6	3.1	0.3	2.1

R 4	竹田市	64.0	71.7	58.8		69.2		83.8	63.1	51.5	60.4	49.7
	全国	65.6	70.5	62.0		69.0		77.9	66.2	48.5	66.6	51.3
	差	-1.6	1.2	-3.2	0.0	0.2	0.0	5.9	-3.1	3.0	-6.2	-1.6

R 3	竹田市	69.9	69.9	54.3					71.1	55.8	36.6	31.9
	全国	68.3	68.3	62.1					77.8	60.7	47.2	40.2
	差	1.6	1.6	-7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	-6.7	-4.9	-10.6	-8.3

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
3三	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	52.9	57.8	-4.9
1一	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。	60.6	64.7	-4.1
2三	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	59.6	62.0	-2.4

■ 課題

- ・ 日常使う「言う」や「食べる」の敬語の丁寧語、謙譲語が理解できていない。
- ・ 情報と情報の関係を「原因」と「結果」として捉えられていない。
- ・ 情報と情報との関係付けの仕方を語句と語句を繋いだりしながら図などで理解することを問う問題であるが、誤答がまんべんなく発生していることから、答えが分からず選択した可能性がある。

■ 授業で気をつけること

○国語の成績が向上していることを考えると昨年度の取組の継続として

- ①人物像や物語の全体像から叙述から捉えたり、表現の効果を考えたりする指導の充実
- ②つけたい力を焦点化し、それにあつたoutputを設定した単元計画の作成
- ③立場を明確にして話し合い、自分の考えをまとめる指導の充実

上記の活動において、書く活動を重視してきたため、書く力はついている

○今回初めて出た「情報の扱い」について課題が見られる。情報を比べて吟味したり、内容を他の言葉で言い換えたりする活動を話す・聞く・書く単元の教材文などで、書く前に文の構造について整理するなどの活動を単元計画の中に入れる必要がある。

■結果の概要（正答率の比較）

教科の正答率

		観点別				領域別					回答形式
		全体	知識技能	思考判断表現	態度	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	記述式
R5	竹田市	59.0	62.7	53.4	-	61.4	45.0	-	68.0	63.5	43.8
	全国	62.5	67.2	58.5	-	67.3	48.2	-	70.9	65.5	47.3
	差	-3.5	-4.5	-5.1		-5.9	-3.2		-2.9	-2.0	-3.5

R4	竹田市	61.0	67.4	53.8	—	69.5	60.8		48.3	66.7	56.5
	全国	63.2	68.2	56.7	—	69.8	64.0		51.3	68.7	60.2
	差	-2.2	-0.8	-2.9		-0.3	-3.2	0.0	-3.0	-2.0	-3.7

R3	竹田市	64.0	68.2	59.5	—	60.8	45.7	71.4	67.6	72.6	47.3
	全国	70.2	74.1	65.1	—	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0	53.0
	差	-6.2	-5.9	-5.6		-2.3	-12.2	-3.4	-8.3	-3.4	-5.7

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	34.6	46.0	-11.4
3 (3)	(151 + 49) × 3 と 151 × 3 + 49 × 3 を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	61.5	72.4	-10.9
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	47.1	56.7	-9.6

■ 課題

- ・ 全体的に全国平均より低い。
- ・ 問題の条件を読み取れていない。（2つ選択）30%は0。3だからで選択している。
- ・ 計算のきまりの理解不足。

■ 授業で気をつけること

- ・ 授業者が単元計画を作成する前に単元テストを確認し、単元でつける力を確認する。
- ・ 具体物を使った導入や操作活動
導入で必ず関係する生活場面を想起させる体験や操作活動を入れ、数理を解決できる見通しを持たせる。教科書と同じものがなければ、学校や地域にある場面と置き換える。授業中は正しい用語を使用させ、説明などをさせていく。
・ 「低：ブロック、タイル 中：数直線やテープ図、高：2本数直線やテープ図、面積図」などのを使い、生活場面を算数の場面に置き換えさせ、抽象化させる。半具体物は単元を通して、学習者の考えづくりの助けとなるように進める。

■結果の概要（正答率の比較）

教科の正答率

	全体	知識技能			領域別						回答形式	
		知技	思判表	主体的	言葉特徴 や使い方	情報の 扱い方	我が国の 言語文化	話す 聞く	書く	読む	記述式	
R 5	竹田市	68.0	68.7	67.8	-	59.7	64.7	77.3	83.2	60.9	59.7	68.1
	全国	69.8	69.4	69.7	-	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7	68.0
	差	-1.8	-0.7	-1.9		-7.8	1.3	2.6	1.0	-2.3	-4.0	0.1

R 4	竹田市	70.0	69.3	61.9		72.3	39.0	73.5	66.2	39.0	66.9	55.1
	全国	69.0	69.0	62.3		72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	57.4
	差	1.0	0.3	-0.4	0.0	0.1	-7.5	3.3	2.3	-7.5	-1.0	-2.3

R 3	竹田市	63.0						73.2	83.2	54.9	45.4	55.5
	全国	64.6						75.1	79.8	57.1	48.5	56.0
	差	-1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-1.9	3.4	-2.2	-3.1	-0.5

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
3二	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	28.6	43.9	-15.3
3一	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	46.2	54.3	-8.1
2三	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる	66.4	74.2	-7.8

■ 課題

- ・漢字の「書き」の問題において小学校6年配当漢字である「推」（おし図る）については、正答率が全国値に比して15.3ポイント低い28.6%であり、全体の2/3以上が不正解であった。
- ・「読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて文章を整えること」（1年B書くこと(1)のエ）にかかる問題の正答率は、全国値に比して8.1ポイント低い46.2%であり、選択問題であったが全体の半数以上の生徒が不正解だった。
- ・「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する」（1年C読むこと(1)のア）問題の正答率は全国に比して7.8ポイント低い66.4%であった。

■ 授業で気をつけること

- ・中2終了段階では漢字の書きについて、小学校学年別漢字配当表に示されている1,026字の漢字を書くことが求められている。今回の「推し量る」のように特に小学校高学年配当の384字（5年：193字、6年：191字）については機会をとらえて復習をすることが望まれる。
- ・「書く」学習活動の中で報告の文章などを書く際に、叙述の仕方に注目させ、何通りかの表現の仕方（書き方）を紹介しながら、よりよい表現に練り上げていく推敲の時間を設定する。その際教師からの指導だけでなく、読み手からの助言をふまえ自分の文章の改善点を見出せるようにする。
- ・中1段階では読むことにおいて、「要約」や「要旨を把握すること」が求められている。教科書だけでなく、さまざまな資料から情報を得て、叙述をもとに考えたことを記録したりメモにまとめたりする学習活動を取り入れる。

■結果の概要（正答率の比較）

教科の正答率

		観点別				領域別				回答形式
		正答率 全体	知技	思判表	主体的	数と式	図形	関数	データの活用	
R 5	竹田市	45.0	50.0	34.6	-	55.1	24.9	49.4	41.7	34.6
	全国	51.0	55.7	41.6	-	63.0	33.2	51.2	48.5	41.6
	差	-6.0	-5.7	-7.0		-7.9	-8.3	-1.8	-6.8	-7.0

R 4	竹田市	53.0				61.3	43.4	41.9	61.5	37.9
	全国	51.4				57.4	43.6	43.6	57.1	36.2
	差	1.6	0.0	0.0	0.0	3.9	-0.2	-1.7	4.4	1.7

R 3	竹田市	55.0				62.1	45.4	57.8	54.9	32.0
	全国	57.2				64.9	51.4	56.4	53.8	35.0
	差	-2.2	0.0	0.0	0.0	-2.8	-6.0	1.4	1.1	-3.0

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
7 (2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	17.6	33.6	-16.0
9 (2)	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	21.8	37.0	-15.2
1	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	32.8	46.1	-13.3

■ 課題

- 7(2) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。また、四分位範囲（箱の部分）はかけ離れた値の影響を受けにくく、集団の特徴を比較するときに適しているということが、理解できていないと思われる。
- 9(2) まず図7をもとに、証明1を正しく理解する必要があるが、①～⑤の関係式やその根拠を正しく理解できていないと思われる。
- 1 自然数は「正の整数」であることを、正しく理解していない。平成28年の調査でも同様の問題があり、全国の正答率は41.4%と低かった。自然数に0が含まれると間違った理解をしている生徒が多いと思われる。

■ 授業で気をつけること

- ① 「データの活用」の内容は、生徒にとって身近な日常生活や社会の事象と関連づけ、複数のデータを比較・考察させる問題が毎年出題されている。7(2)の問題については、四分位数を求めたり、箱ひげ図をかくことに終始する授業では正当には至らない。不確定な事象を捉え説明したり、目的に応じて判断させたりする授業を意図的に仕組む必要がある。更には、正答の答え方を授業者が正しく知った上で、授業の中で指導しておくことが必要である。7(2)の正答は、「1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある」が最低限書けていればよい。このことに気づいていた生徒は正答者数以上いたと思われる。正しく説明できるよう、説明の仕方も指導が必要である。
- ② 図に必要な事項を簡潔に書き込ませる。
9(2)の問題は、頭の中ですべてを処理しようとする、時間もかかり正しく理解できない可能性が高い。等しい関係の場所に同じ記号を入れるなどの基本的な工夫を怠らないことが大切である。※関数の問題等でも、分かっていることを図に書き込ませ、視覚的に情報を整理する癖を身につけさせる。

■結果の概要（正答率の比較）

教科の正答率

	全体	観点別			領域別			回答形式	
		知技	思判表	主体的	聞くこと	読むこと	書くこと	記述式	
R5	竹田市	36.0	41.4	29.5	—	50.8	41.9	10.4	7.6
	全国	45.6	51.5	38.8	—	58.4	51.2	23.4	13.5
	差	-9.6	-10.1	-9.3		-7.6	-9.3	-13.0	-5.9

R4	竹田市								
	全国								
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

R3	竹田市								
	全国								
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

実施なし

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
9 (1) ①	「書く」：与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	13.4	40.4	-27.0
9 (2)	「書く」：メールの英文を依頼する表現に書き換える	11.8	29.0	-17.2
8 (1)	「読む」要点：ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	41.2	56.1	-14.9
6	「読む」概要：友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	21.0	35.9	-14.9

■ 課題

- 音声理解ができていない。（聴き取れない、音として読めない）⇒場面や状況が想像できない。
- 基本的な語彙や文法が定着していない。
- メール文、対話文等、まとまりのある英文の概要や要点が読み取れていない。目的に応じた読み方ができない。
- 与えられた情報に基づき、自分の考えとその理由を書くことができない。

※経験不足

■ 授業で気をつけること

- 「つけたい力」を意識した、単元構想・1時間の授業構想を行う。
 - 各単元での「つけたい力」に添った指導と活動を、その単元内で繰り返し行う。
 - 「聞く」「読む」「話す」「書く」活動のメリハリをつけた授業展開を行う。
 - 指導⇒活動⇒指導⇒活動を繰り返し、使わせながら、文法や語彙を身に付けさせる。
 - 学習指導要領および解説に添って、コミュニケーションの目的や場面・状況を意識した指導を行い、コミュニケーション活動を仕組む。
- ・英語教師は、令和5年および令和2年全国学力学習状況調査の過去問題を令和5年9月の研修会までに必ず解く。
- ・英語教師は中3生に対し、宿題や単元末テスト等で英語検定試験の問題（4級・3級・準2級）に取り組ませる。

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果概要（全国平均との差による比較）

小学校

◆肯定率が高かった項目（全国平均との差）

番号	設 問	差
63	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	49.4
67	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	21.2
60	調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	18.6

◆肯定率が低かった項目（全国平均との比較）

番号	設 問	差
64	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（1）不登校児童に対する学習活動等の支援	-28.7
41	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか	-26.6
15	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	-23.0

中学校

◆肯定率が高かった項目（全国平均との差）

番号	設 問	差
71	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	34.1
65	調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	30.8
55	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	25.8

◆肯定率が低かった項目（全国平均との比較）

番号	設 問	差
72	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（1）不登校生徒に対する学習活動等の支援	-38.1
23	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	-33.8

50	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか	-21.1
----	---	-------

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

Ⅰ 調査結果概要（全国平均との差による比較）

【児童質問紙】

◆肯定率が高かった項目（全国平均との差）

番号	設 問	差	竹田市	全 国
43	国語の勉強は好きですか	16.8	78.3	61.5
25	今住んでいる地域の行事に参加していますか	12.0	69.8	57.8
41	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	9.2	84.9	75.7
24	読書は好きですか	8.4	80.2	71.8
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	7.9	76.4	68.5
35	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	7.6	90.5	82.9
21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（週に1回以上）	7.4	20.8	13.4

◆肯定率が低かった項目（全国平均との比較）

番号	設 問	差	竹田市	全 国
17	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（2時間以上）	-7.7	17.9	25.6
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（2時間以上）	-6.7	6.6	13.3
58	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか	-5.9	40.6	46.5
51	算数の勉強は好きですか	-5.7	55.7	61.4
26	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	-4.1	72.7	76.8
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	-3.7	77.3	81.0
30	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	-3.6	91.5	95.1

◆竹田市の小学校6年生の状況

国語の学習が好きで、週に1回以上は図書館に行き、読書をしている。地域の行事などにも積極的に参加している。その反面、算数が好きではなく、家庭での学習時間については少なく、決まった時刻に寝ることが苦手。社会貢献やICT機器に関しては、興味があるものの比較的低い。

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

◎調査結果概要（全国平均との差による比較）

【生徒質問紙】

◆肯定率が高かった項目（全国平均との差）

番号	設 問	差	竹田市	全 国
23	新聞を読んでいますか	26.5	35.0	8.1
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	16.1	54.1	38.0
26	普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか	15.9	75.0	59.1
33	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	13.9	75.0	61.1
28	学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか。2時間以上	11.5	58.3	46.8
21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（週に1回以上）	11.4	18.4	7.0
58	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	7.6	83.4	75.8

◆肯定率が低かった項目（全国平均との比較）

番号	設 問	差	竹田市	全 国
41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	-16.7	52.5	69.9
36	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたか	-15.4	46.7	62.1
27	学校の部活動で、普段活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか（2時間以上）	-11.8	30.9	42.7
52	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか	-11.7	54.2	65.9
57	数学の授業の内容はよく分かりますか	-10.8	62.5	73.3
61	英語の授業の内容はよく分かりますか	-9.7	54.2	63.9
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	-8.9	57.5	66.4

◆竹田市の中学校3年生の状況

新聞を読むことに関しては、全国に比べ、相当に高い値を示している。地域参加や部活動なども積極的に参加している。数学、英語に関しては苦手意識があるが、分からなかったことについて、次の学習になかなかつなげることができていない。そのことについて、相談することについても苦手があるようである。

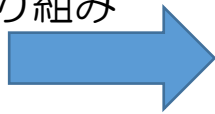
2 竹田市の子童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- 算数・数学の苦手意識があるので、わかる・できた授業に向けて授業改善を進める
- 発信の場面において、効果的な話し方や資料について工夫をさせていく。
- 子童生徒の困りや悩みについて、調査やアンケートの見直しを行う。

竹田市学力向上にかかる8月からの取組

竹田市の課題

1. 継続した粘り強い取り組みの徹底・検証・改善



- 学力向上プランの徹底した取組と検証
- 学校訪問の実施

2. 組織的に取組む力の不十分さ
学校間格差



- 主要主任（ミドルリーダー）への研修実施
- 「たけたん小テスト」実施
- 中学校英語「単元末テスト」の作成、実施

3. 授業改善による学力向上
若手の授業力向上



- 中学校英語授業力向上研修の定期的開催
- 小学校放課後学習会の定期的開催
- 授業を見合う時間の創出

課題解決に向けた具体的な取組

「竹田市学力向上プラン」～令和5年4月～

および、各学校「学力向上プラン」の徹底

1. 継続した粘り強い取組の徹底・検証・改善

- 【小学校】各種調査から明らかになった課題解決に向けて、各学力向上プランを見直し、取組の徹底を全教職員で確認・検証
- 【中学校】各種調査から明らかになった課題解決に向けて、各学力向上プランを見直し、取組の徹底を全教職員で確認・検証。また、各教科部会で取組の徹底を全部会員で確認・検証
- 【学校訪問】授業改善の進捗（授業観察）、学力向上プランで確認した取組・検証・改善の進捗状況

2. 組織的な取組、学校間格差の是正

- 主要主任（ミドルリーダー）研修（学力の状況・竹田市の学力向上の取組）
小学校⇒各学校ミドルリーダー、中学校⇒教科部会研究部長・各学校ミドルリーダー
 - 【小学校】「たけたん小テスト」の作成・実施
 - 【中学校】英語単元末テストの作成・実施
- ※全国学力調査・大分県学力調査の内容分析、「求められている力」の明確化・定着

○ミドルリーダー（教務主任・研究主任等）会議（各学校1名・主幹教諭）
令和5年8月29日（火） 15:30～16:30 竹田市役所3階会議室
・「今後の取組」説明および各学校学力向上プランの交流

○教頭会議
令和5年10月3日（火） 15:00～16:30 竹田市立竹田中学校会議室
・「管理職の立場から進める学力向上対策の取組」

○ミドルリーダー（教務主任・研究主任等）会議（各学校1名・主幹教諭）
第1回 令和5年8月29日（火）15:30～16:30 竹田市役所3階会議室
・「今後の取組」説明および各学校学力向上プランの交流
第2回 10月下旬 15:00～16:30
・組織的取組の進捗状況の確認、好事例の紹介

3. 授業改善・若手の育成

【小学校】放課後学習会の定期的開催（模擬授業、授業づくり、指導案作成演習、お悩み相談）

【中学校】中学校英語授業力向上研修の定期的開催（模擬授業、授業研究、定期テスト交流）